鶴舎有節翁注訣

七部集之内

ひさご

江南ノ珎碩我ニヒサゴヲ送レリコレハ是水漿ヲモリ酒ヲタシナム器ニモアラズ式ハ大樽ニ造リテ江湖ニワタレトイヘルフクヘニモ異ナリ大吾ヽタ後ノ恵子ニシテ用ルコトヲシラズソノホトリニ睡リアヤヽリテ壷ウチニ陥ル醒テミルニ日月陽秋キラヽカニシテ雪ノアケボノ闇ノ郭公モカケタルコトナクナホ吾知人トモ見エキタリテ皆風雅ノ藻思ヲイヘリモテラス是ハイツレノトコロニシテ乾坤ノ外ナルコトヲ出テソノコトヲ忘テ毎日壷内ニヲトリ入

元禄三六月

越智 越人

此席寓言ナリ始メハ荘子ノ故事ナリ叟ヲ俳諧ノ叟ニ轉
シテ趣向トシタルナリ
○江南ノ珍碩 此人江湖ノ人ナレド題号ヲヒサゴト字ス
○ヒサゴヲ送レリ コノ送レルヒサゴハ器物テハナク此集ヲ送
ラレタルナリ
○惠子 ハ人名ニシテ五石入レノ瓢ヲ持シ人ナリ此叟ヲ荘
子ニ問ヘハ荘子ハ大樽ニ造リテ江湖ヲ泛レトヲシヘシコトアリ
叟ヲ假借シテ文法ナリ
○アヤニリテ此ウチニ陥ル ウツカリシテ此集ヲ見テウツク
く考フレハナリ是ハ漢書ノ費長房カ故事ナリ此壷
トニリ俳諧ニタトヘテ此十七文字ノ内ニ四時折〱ノ
樂ミミ居ルコトナシト諷シタルナリ
○ナヲ ハ猶奈保ナリ

○吾知人トモ ヒサゴ集ノウチノ人物ナリ
○藻思 水底ノ草志ノ深キヲ云フ此藻ノ字ハ文ノ藻ナ
ドヽイフ字ナリ
○コトヲ 句讀ノ切ナリ コトヲシラスト返ル句法ナリ
○出テ 誘ニヨリ入ルトイハンタメニ出テトイフタモノナリ
○毎日 此ヒサゴ集ヲ机ノ上ニオイテ楽シムトナリ
○
荘子ニ曰惠子謂荘子曰魏王貽我大瓠之種我樹之成
而実五石以盛水漿其堅不能自擧也剖之以為瓢則瓠
落無容非不呺然大也吾為其無用掊之荘子曰夫子
固拙於用大矣今子有五石之瓠何不慮以為大樽而
浮乎江湖而憂其瓠落無所容則夫子猶有蓬之心也
○

漢書列傳汝南ノ人曾爲市掾有老翁賣藥懸一壺於肆
頭及市罷輙跳入壺中市人莫之見唯長房於樓上觀之
異因往再拜奉酒脯翁知長房之意其神也謂之曰子明日
可更來長房旦謂長房翁乃与俱入壺中唯見玉堂嚴
麗

花見

木のもとに汁も膾もさくらかな　芭蕉

蘭ノ室ヘ入ルモノハオノツカラ香ハシトイフ格ニテ一団ノ花盛ニ
汁モ膾モサクラカトヨミ玉フナリチリミケル花ニハアラス。
赤さうしニ翁ノ曰ク花見ノ句ノカヽリヲ少シ得テカルミヲシタリ
トナリ花山院ノ御製木ノモトヲスミカトスレハ自ラ花見ル人ト成ヌケルカナ

西行上人　木ノモトニ旅寝ヲスレハ芳野山花ノフスマヲ着スル春風

古今集　侘人ノワケテ立ヨル木ノモトハ頼ムカケナク紅葉チリケリ

西日のとかるとけき天気あらく　琉碩

汁モ膾モイヘルサトカメテ花見ノ満奥ヤヽ日モ闌タリト見テ
西日ノトカト服セシナリ

旅人の風かきわく春暮ゆきて　曲水

第三轉句初メテ人倫ヲ出シタリサテ季立ハ上ノ句ニ先

タツリワロシオクル、ヲヨシトス法トスヘシ旅人ノヨキ日和
ニ風カキ行トハオカシキ如妙ナリ

さまさま習ハしぬ太刀の鞘　翁

前句長旅ノ風情モアリテニセ侍ノソフリイフトリ兼ルナリ
前句ノ乱ニ太刀ノ引肌ニテ作者ノ功ヲ見ルヘシ

月待て假の内裏の司召　碩

假ノ内裏ハ吉野ノ内裏ナトノオモカケニヤミカラハ前句ノ佩モ
ナラハ又太刀ハキタルハ御味方ノ人ニハツラナル野人ノ借ナルヘシ○
歳時記八月司召 昔六位以上加階アル人ハ芸能行跡ヲエラ
ミ栄爵ヲ授ケ玉ヒシナリ上卿宮ノ東ノ庇ニ着ク行フ朝
所ニ着テ三献ノ儀式アリ次ニ宴穏ノ座ニツク又三献アリ柳頭
ノ花ヲ上卿以下冠ニサシ大臣ハ白象納言ハ薫菓参議ハ龍
膽其余ハ時ノ花ヲサス二月ノ列見ニ同シ式兵ノ両省ヨリ
諸司ノ輩ノ旨ヲ選叙スルヲ列見ト云ソレヲ書アツメテ奏ス
ルヲ擬階ノ奏ト云コノ人々ヲ擢出シテ定メラルヽヲ定考ト申
スニ○公事根源司召ハ秋ノ除目ナリ京官ノ除目トス春ノ除
目ハ縣召ト号ス各辞任ノ輩コレヲ召ス大政臣秋ハ外記
ノ廳ニ於テコレヲ召ス 【教隆御記】トアリ

籾臼つくる杣のはやつき水

假ノ内裏、附シハ大嘗会ノ時悠紀（ユウキ）主基（スウキ）籾ヲツリ臼ナリト
新嘗祭ハ初稲ヲ神ニ供ルナリ

鞍置る三歳駒子秋のまつて　翁

前句六ツカシク在体ナレハ其用ヲ見出シ三歳駒トモヨリタリ
秋ノ来テハ季ニテ農家ノイソカシキ見ユルヤウナリ

名はさまさまに降替る雨　碩

秋ノ来テトイフヲ呼トカメテ時候ノウツリ行スヘヲイハントテ

名ハサマシヽニト附タリ○此句時雨ノ句ナリト云冂季五句去リナシ氏
中ニ他ノ季ナケレハサ句去テモセス袖寒キ涙ノ句ニテ他ノ季ナシ

入込に諏訪の涌湯の夕まくれ　水

是ハ名ハサマシヽトイフヲヌキ出シテ入込ニ諏訪ノト附タリ
此格難キ事ナルヘシ○諏訪ノ湯座オメニハナシ

中にもせいの高き山伏　翁

是ハ入込ノ中ヨリ一人ヲヌキ出シタル句ナリセイノ高キ山伏ハ
面白シ○前句ニハアラテ附タル句ニソノ中ノ一ヲ目ニ
立テイヒタルナリト云

いふ事を唯一方へ落しけり　碩

此句ハ前句ノ中ニモトイフ詞ニ目ヲ付ケ大勢ヲチヨリタル
議論ノムシロナト、見テ勢カノ高キ山伏カ肩肱ヲハリ高
声ニナリテ理非ヲ弁ヘス権柄ヲトリテ余人ノイフヿヲ一方ヘ
落シ付タルナリ

ほそき筋より恋つのりつゝ　水

前句異見スル人附句ハ恋スル人ナリイカヤウニ異見シテモ心
ニモトヽメス一トスチニツノルナルヘシ

物思ふ身にもの喰へとせつかれて　翁

前句ヲ戀煩ヒト見テ心ヲミテ又人ニカモノヲ喰ヘナトスヽム
ルカウルサシトナリ

月見る顔の袖おもき露　碩

前句モノオモフトイフニテ月見ル貌トハ附タリ袖オモキ
露ハ泪ノカクシ詞ナリ○露トイフニテ季ヲ持タリ

秋風の船をこはかる波の音　水

コヽニハ左遷ノ人ナト、前句ヲ見カヘテアスハ船出セシニ頃
ニキ秋ノヿナレハ海上イカナル変モヤト案シ煩フナルヘシ

一 行く〳〵や白子若葉　翁

あさらしミ曰ク前句ノ心ノ余リヲ取リテ付ケシモノアラハシタル句ナリ

白子ハ不断桜ノ名木アリテ耕屋ノ形名産ノ地ニ

千部読花の盛の一身田　頑

前句ノ丁ハ春秋ノモノナレハ行クヲカヘルト見カヘテ花ノサカリト季ウツリヲミタリ作者ノ大イニ手ガラナルヘシ○伊勢ノ国ノ一身田ハ白子ノ隣里ノ地名ニ○浄土三部経ヲ一部トシテ毎年春三月僧百人ニテ転読ス高田派ト云高田ヲ一身田ヘ移シテ本山トス従土御門院勅願ノ門跡ト云○句意ハ時候ノ附ニシテ花サカリノ頃ハ白子若葉ノ方ヘウツタルヨト見やりたる句なるへし

巡礼死ぬる道のかけろふ　水

此句ハ一身田ノ千部ヘ参詣ノ道スガラ巡礼ノ死タルヲ見テ道行人ノイトヲシカリシニ参詣ノ人ノ移リヨミカケロフハ季立ナリ

何ごとも蝶のうつゝそあはれなる　翁

前句ノ無常ヲ観シテウツクシキ蝶ノ舞姿モウツヽナノ世ヤト見やりたるなり

文書ほとける力さへなき　頑

前句ノ蝶ハ力ヨハキモノナレハ自ラノ恋人ハ及ナキ上﨟ニテ恋ワタル力ナキニタトヘタリ○此句自ニ

羅子日をいとふまろき顔かたち　水

前句ノ貴人ノ恋スル君ハ羅ニテ日ヲイトフホトノ及ナキ上﨟ト付タリ○此句他ナリ

兼好見たきよ注みひゝ　翁

久仁親王御年十三兼好ハまた〳〵見ルヘキヨシ仰アル又他ナリ

手束弓紀の関守の頑な　頑

前句ノ上﨟ステニ旅立テ関ノ戸ニ中リケルニ情ヲ知ラヌ関守ノ

頓ニシテ得道オスナト、アラツヒヽ之○手来るハ鈍ノ枕詞ナリ○頓ハ
無智ノ形

○

附句ノ三句目ハ影響アルヘキ如ナリオホカタニ筋立ノ縞ノ如ク
人情ニ句究ツ、ケハハヤ三句目ハ冬ノ夏ノ雨ノ雪ノト逃ケテハ一巻
力ナシ古集ノ骨折ヲ師ニ学ハサル故ニ此段人事六句續侍レト
カツテ打越シノ沙汰ナシ是ヲ貞徳ノ袖日記ニ逆モ木トイフ心
ハ先ニ立作者ノ一已ノ手カラニセス逆モ木ヲ川ノケしく読テ
ツヽリ兵ヲ城キハニ近ツクルカ如ク名人ノ交タル一巻ハカクノ
如ク自他介助ニシテハコヒ安し

酒てもはけぬあたま成けん　水

前句ノ閑字ハ愚痴文盲ニシテ慈悲ヲ知ラス酒ハカリ呑ムハ
得モノナレハナリト○テ酒テハケヌ天窓トハ一句ノハタラキ面
白シ聖賢ノ道ノ道ハ露路モラストイハンタメニ

双六の目をのそくまてくれかゝり　翁

前句ノ人カ毎〻酒ハカリ呑ンテ居ルカケフモ「サイノメノ見ヘ取
直朝カラ酒ヲ呑ンテ酒ハカリノ藝ナヤトキコユルカステ此句ハ酒
トハクチノ附句ニシテ句中ニ人ヲイてしメタリ○暮さかし白気味
ノ句ナリ終日双六ニ長スル情ヲ酒ニハケヌヘキ人ノ気味ヲ持タ
ルナリ○枕草紙ニ双六ヲ日ひとひウチテナヲアカヌニヤトアリ

仮の持仏にむかふ念仏　頓

前句ノ双六ウチカ思ハス日ノクルヽニテ勝負セシカフト佛ノ
戒ヲオモヒ出シ余所ノ中ナカラ仮ニ持佛ニナツラヘテ念佛
セシナリ

中〳〵に土間に居れは蚤もなし　水

前句ノ念佛ハ寺道場ノ念佛ニアラス　ソコテ場ヲ定メ
極暑ノ折カラ蚤蚊ノクルシキヲイトフテ出間、出タレハ蚊ハ
モツロン蚤モナクテア、雜有ナムアミタトヤハタモノナリ○中
ヘニイフ詞雜言ニテハ却テトヽフヿナリ○此一句変

我ためを里のあふるものゝふ　翁

前句ノ人ヲ大勢ノ中ヨリヌケ出タル人ト見テ附心ハヨフカヘ
スレハ我ヲミニナカナフリモノニスルニハ困ルイハリ人牛、ヨコフ
ヌカヨイトミ○あさふしニ前句ノ如ニ信ヲ見込ミヲカモアルヘキ
ト思ヒトヒ人ノ体ヲ付タルナリト

憎もていふゐ羽雉の肝を煎　碩

前句ノナフラレモノハ元来憎ニシテ井ルカラノヿチヤソコテ
ヲトリノ件ハ、モ入レ又カヨワテ腹立タルナルヘシ

月花くゝ明渡る　丈水

コハ前句ニテ十句ツヽイタソコテ此句ハオトリトムヲ聞ト
カメテモラスヽ夜ノ更ルヿヲ付テヤリ句ニシタルナリ

花莚あまりまつ身はさらと捨て　翁

コハ月花ヲイフニテ秋ノ文行ノヲオモヒ花莚ノヒニナク
ニ示ケハウテカル、ヨ月ヌ夜毎ニ欠行リトミ○花ズニキト潤
音ニヨムハ古例ナリ

唯四方あるゝ草庵の雨路　碩

其場ミ前句ヲ草庵ノ外体ト定メタリ四方ナルハ山野ノ体
ヲ見セタルナルヘシ我庵ハ元ヨリモトメリタルモノモナケレハ四方ナ
ル露ヲ見テクラシトナリ

一貫の銭もつらしと返す　水

コハ其人トイフ附句ニテ何ぞノ謝禮ニ銭壱メ文人ヲ為織サ
レヽヲ此庵主銭おしケレハコヽナ身分ニハナラヌト返シヤリタ

ル隠者ノ体ナリ

醫者のくすりハ飲ぬ分別　翁

前句ヲ一見識アル人ト見テ下手医者ノクスリ呑ムヲイツハリノ二又カヨイトニコレモ隠者ノ無用ノ附トミルヘシ

花咲の芳野あたりを廻り　硯

前句ノ薬飲ヌヲ吟トカメテ花ナハ無知ノ土ニナランニナシツ医者ノクスリヲ用ヒヌト氣象ノ高イ世捨人花ノ名所ヲメクルヒアルクトナリ

蛙にさそハし春の山中　水

カケメクリトニヲ吟トカメテ花ヲ見ルニモ名ニモオフ芳野山ヨリコト山ヘカヘリクルニヨリテ蛙ニカレタトナリ○二句春ナリ

翁十二　硯十二　曲水十二

ゆるし名をまきふハし　春の草　硯

此發句春さふしニ名もまきふハしト有語ニモノ手尓波ハ今一ツアルトキワカフ詞ニ又去来抄ニハカモトテ語勢ヲツヨクスルモノ字ノ論アレトモ古例ナシ心ニテ見ルヘシ○此句秋ノ草ニテモヨキヤウナレ圧サニアラス春ハ万物発生ノ時ナレハ春ナラテナラヌ句也

うれしき蝶の目を覚しぬる　翁

發句ノケシキヲウケテ蝶ト趣向ヲ定メタリウケテトハ春艸ノ風ニウチシレテ三下心ハ發句ハ道ヲ悟ラ人眼一棒ニテ示教セシ禅ノ意モアルヘシ○春さふしニ此眼ハ〻キラハレトイフ心ノ句ニシキリニ蝶ノミ久ル〻すて思ヒ入ラケレキヲ付ケル句也云云

蝙蝠の路をあまたさしおて　路通

眼句ニシツカナル体ナレハノトカニトナタリ蝙蝠トイフラノメ首ヲすてヲ見セタリ

駕籠の通らぬ峠越たり　仝
四句メ前句ノ静カナル場ヲ定メテ付タリ付心ハ常ハ人モ往
来モナキ峠ナレハかはほりも面をかくしたれとし　○大鏡ニ摂津
ヨリ丹波ヘ越スル峠ナリト治定シタレモ此峠ニモ限ルヘカラス
けし種の実をかますに入まし　夕召くさ　碩
前句ノカヒシキ峠ヲコエテ来タ旅ノ在家ノ体ニ句意カクシタル所
ナレ此種ノ実ハ粮ナトノ用意ナルヘし
親子のならひて月子物くふ　仝
コホレ月此句ハ前句奥山家ノ体ナレハ月ノメテタキモ知ラテ
親子物クフトハ付タリ百姓ナトニ用井テ知ラスト思ヒ合スヘし
ウ
秋の色宮もの絲かせ結ひとつ　通
大塔ノ宮ノ御ナヘしトハイヘトモ御しニテモヤンコトナキ人ノ旅ナルヘし
さそくさもそハ笑しふ　僕　仝

前句ノ若公達何ヲノツカセ玉フソト案シカヘシテ后チ宮ノ体ヲ
付タルナルヘし
うつり香の羽織を肩子ひきまきて　碩
此句鄘通ヒノ男ト付タリアカヌ別レ路ニ移リ香ニオシア
テオテ女ノ俤ナトヲワスラレス思フ風情ナリ
小六うたひし市のかへるさ　仝
前句男ノ姿ヲアラハシニ句一意ナルヘし小六トハ此頃ノハヤ
リ唄ナリ
鯰釣のちんさく兄田の川の端　通
前句ノ人市ヲ出テハ野辺ハ山ソタルカ類向テ淋花タル郎
外ノ鹿カキニ鯰釣ヲ向フ川岸ニ見付タルナリ三月ノ
季ニアルハ柳鯰ナリ
念佛申てをかむこ川やき　仝

其場舟ニテ其ハアタリ山アリ川アリ又堂社モアルヘ
シ念仏申テヲカムハ一句ノハタラキ也○ミツカキハ神垣ニ
さしもえし菜もうまれ年の暮　碩
前句ノ念仏ヲ嘆息ノ念仏ト見カヘテ年ノ暮ノ述懐ヲ
付タリ○嘆息ノ念仏トハアヽナムアミダトヤル大方人アルヘシ
庄野の里の犬をおつてさくれ　仝
大鏡「亀山ハ葉のあるものハとめかくしもなき山也」
前句ヲ古歌ニ因リテ亀山トモ庄野トモ見タリ○亀山庄野ゴウ
ナキニアラスカレト附心ハアヤシキ菜壹ツ大ナ咏ハヤリタルテナリ
旅姿雅き人ニ嫗つきて　通
前句ヲ東海道ノ旅トス嫗ノカヒしくしカラ又旅姿ニ雅き人
ノヨリおとし土竈ノ落人ナルヘシ○嫗ハオヨナニテ老女ナリ
花ハあくのんく月ハ朧夜　仝

此句ハ雅き人ヲナクサムル体ナリ○表六句メニ月ヲコボシ
タレハ又ウラノ七句メノ月モコホシテ十一句メノ花ヲ引上ケ
十句メニ月花ヲシタル変化ノ一格ナリ
志賀のさくれ縁の下まて積貯ニ　碩
旭され茶名の海のヲハさくハ海のなみのりてそゝん也若久郎
丹波ノ海上ハナキニトサレハ二ハヒトヨムカヨシトシ。前句ノケラキ
アニリアルヲ述ヘタルナリ
生鯛あかる浦の春かな　仝
前句ノ知ヲ定メタル場ニ生鯛アカルハ用ニテ浦ノ春トハ体也
此村の磨さる道者のあつまり　荷兮
又ツノ浦ノアリサマヲイハントテ上ノ二句ハケシキナレハ人事ヲイハント
テ句ツクリヲヤツシタルナリ○万葉抄ニ村ハ群ノ意
此うハんおけハもの志らといふ　越人

サレバヨツロバンオケバ物ニシリトツブ辺鄙ナ処ヂヤトナリ

かゝるさるふ世を退居もせる　る年　〃

カヽル辺鄙ナ処ニツメチテ都会ノ人ノ目カラ見タナラバ半日モ居ラ
レマイト思フヘキニ俚言ノ通リ住メバ都ニヤト自ノ句ニナルナリ前句ハ
他ノ句ニテ噂ナナリ

まゝ泣出し　酒のさゝめ　あ　ハ　人

前句ノ人トコヤウ述懐ノ姿アレバ一タ泣出シト付ケ無餘意式
ニシテ筆ノミ丈ケタリト云心ナルヘシ○ヘタの字能夕心ヲ付レバ
常ノ道ヲ学ニ志アレトモ酒ハ文ナ又ヨトナリ○際国伎波

花のめやる秋の夕挽しいろき　〃

酒ノサメ際モキモノナレバ秋ノ夕クレヲ詠メヤルト付タリ○夕ハヒロキ
ハタヽクサニ顔ノ夕ヽニテ俚言ナリ花モ紅葉モナカリケリノ
歌ヲモヒ合スヘシ

蕎麦吉ゐ子山の胴中　人

是ハ真場ナリ秋ノ夕アノケシキカクシタル所を

うそんうつ里の蕎麦の月の影　〃

野山ト云フヨリ里ト付タリウツリニイハヽ里ノハツシヨリ前句ヲ
見渡しまんなりる月ハ引上ニ但ニ聞あリノミナリ

すましもりすのこぬ程もし　人

里ト云フヨリ人倫ト付タリ句意ハ在体ノ子供ニテスモヽニ出ト
イフヒヽキナリ

めつらしや真中言ふ事之と立ともすり　〃

前句モ此句モ見やうえん句之前句ノ在体ノ用ヲイツヒトテ
山ヘユトハ付タリ

文殊の智恵も般特か愚　ニ痴　人

前句ノヘユ裏ルト云ヲトカメテ人ノ智ヲ愚ニ出シ文殊ノ智槃

渇ノ愚ト疏向ナウツヽタルナリ○句意ハ観想ニテ貪愚渇
失一致ナリト云句ナリ
茶も水も滅又とりおまとしいそ侍　句
此句ハオカシミツイハレトテヒヽキ味噌ト合タリ○句意ハ此味
噌ノカゲンハ其時ノ出来モノニテ知恵テハ出来又トナリソコテ
此ヤウニアンハイヨク又トハ出来ヌトニ
何ともなき夜ふ釣棚　人
是ハ前句ノ場合ニテ無キモノヲ疏向トシテ付タリ○スヽ部
屋ナトノアリすてなり
名月
志のふ夜のそのしゝあそて笑ひ出　句
是ハ其用ナリ○句意ハ勝手覚ヘヽ内ナレ氏灯ノナキニ方位
ヲウヱナヒテ迷ヒ出テ眼一致ノ場ヲノカレテ忍フ夜ノヲカヽ
ウナリテトハ類ヲ出タル作ナルヘシ○ホムルハオカシワラフハ

三句ノ渡

ヲノカナヽ玉かつま若ナノ下ニアリ
手をとられ顔を見ぬ為きして　仝
前句ハ男附句ハ女ナリ意句ハカクアリタヽみるとゆるトハア
フカトスレハ白ツモ見スニツカレニトナリ△世継物語ニ四ノ本院ノ
侍従ト云好色一物トイフ女アリソレヲ好色第一トイフ平仲カ
ノ君ニ亦又くトゝ忠ニケレ氏スヘテ返事ヲタニセス五月ノ廿日
オミタレカキタレテフリケル今宵ニモユカハナトカ落ナランカ忍
ヒテケリ人ノ攸金ハツヽタルニ附入テフヽトニイタリ髪ナテナ
トスルニ侍従ノ君中戸ノカケカネヲ忘レタリト云フテキルモノお
又キテ行ニカ来ラス平仲カクヤミナミタハ五月雨ヨリモ多ルメリ
汗の香をかくえて衣をとりおし　人
此句ハアヤリノ日着オミタメラフウチミヽカ夜ノ明ワタリ久ルニヤ
志まりみ雨ハうちあ声てふゝ　仝

是ハ時候ノ分ニテ汗ノ出ルハ雨イキレト見テ大夕立ト付タリ

花さかり又百人の膳立てし　兮

前句ノ雨ヲ春雨ニ見カヘテ其雨ノ後ノ花サカリトハ附タキ
タリ附意ハ都ノ花ノ名所トモ山寺トモ見タリ百人トハ大数
ヲ云フノミ又思フニ山寺ナトノ花供養ナドナルヘシ

春ハ旅ともおもはさりけり　旅　仝

アケ句ハ前句ノ山寺ナトヲ巡禮スル旅人ナリ旅ト云フハ一句
云タオズ海ニ残ルヲ以テアケ句ノ祝言トナルナリ

砧碵九　翁一　路通八　荷兮十　越人八

△四句目ノ了軽ミトハ發句脇第三ニ骨折タル故ト知ルヘ
シ只ヤリ句スルヤウニイヒナシタルハ一巻ノ変化ハ此句ヨリハし
ハルナリ

城下

大鏡ニ此端書ナクトモ済ナルヲミルミタルハ殺生ゆへテハ風
雅ニアラサル故稽古筒ト聞セシ為メナルヘシト

鉄炮の音に曇る卯月哉　野径

四月頃天気晴朗ニシテ日雲ナキヲ遠ヒヾキノ鉄炮ノミケフリノ
朦朧トミタル景シキ目ニ見ルヤウナリ

砂の小麦の痩てまくろし　里東

發句ニ場ナシイツレノ處ニヤト見定メ海辺ト趣向ヲ起シ砂ノ
字ヲ眼トス小麦ノ痩テト風情ヲ取リハラくトハ繁茂セサルノ形
ナルヘシ此脇ニテ前句ノ漸芝タルケシキハイヨく見ヘタリ

西風にまそほの小貝拾ハきて　泥土

変ニハ海辺ノ用ヲイハントテ貝拾ヒト付タリマスホノ小貝ト云フニ

テ一句丈高ク第三ふりヨシ○ハスホハ眞薙坊ニテ赤キ小貝
ニテハ美ニカヨヒテホメタル詞ナリ
なまぬるき一ツ餉ひかゐたり　九州
四句目フリヤスラカニ素湯ヲフトハノニトノカハキタル時ハ又ルキ
湯ヲ好ムニ附意ハ前句ノ人ノ用ニ○「餉モラ」ツヘカナ大ホヒアリ
暮いさかひ二人志らずある有明ろ　怒誰
句意カクレタル所ナシ○サテ發句ハ卯月ニテ月並ノ月ナレ氏五
句目ニ月字オシアフヱヱ有明ニト附タリ
秋の夜番物もうの声　珎碩
是モ句意明カニ物モウハ時申スノ事ニ二人モラケタルニテ時申ス
ウヲ聞トカメタルナリ
女郎花心細氣子たそもまして哉　筆

女郎花トハ秋気ヲモタスルタメノ料ニテ女ノ事ニ女ハ異父ニサソ
ヒ出サレタルナリ前句ノウツリハ夜ノ更タルスカタナリ△深草御
門ノ御時良少将ト云色好ミ今宵アハントチギリケレハ女イタウ
ケサウシテ待ケルニ音モセス目サマシテ夜ヤ更ヌラントオモフホト
ニ時申ス音ノシケレハ聞ニ丑三ツト申ニツ少将ノモトヘイヽヤリケ
ル「人ごゝろ丑三ツ今ハたのましよ」少将オトロキテ返シ「夢
ニ見ゆやとねぞすぎにけり」此連歌拾遺和歌集ニアリ
月の中おもく見きかゝある　野径
前句ノ女アラヌ父ヘサソヒ出サレテセンスヘナク物モエイハス思ヒ煩フ体
ナルヘシ
ゆふも又川原嘸をしく覚へ　里東
前句志ヤミカ労カイナト、見はずの附ハカルロツイフ御伽ナルヘシ

顔のきこのしらきさ生つ来　寿利　泥土
此句ハ前句ノ人ノ形ヲアラハシタリ
馬ニ召神主殿をうらやミて　乙州
前句ノ人ヲカシキ貌付ニテ神主殿ノ身フリヲシテ一座ヲ笑ハセタトナリ
一里こそり山の下刈　怒誰
句意ハ此ヤウニ辛苦ナシテワレ〳〵ハヨルカ神主殿ハ楽ナモノシヤトナリ
見さらまて岩屋に足も留らもれ　泥土
撰集抄ナトニアルヤウナ世捨人前句ノ人ニ見ヒラレテ之△古今集、日ノ蔵上人「寂莫の苔の岩やの志つけさに涙の雨のふらぬ日ぞなき」
そまし世ハ涙雨としくれしと　里東
前句ノ世捨人ヨノ中ヲ観シテ朝ノ如クステシ身モ心ツカヒハアルナリトカクテヽナラヌ世ニヤトナリ雨トミクレハ涙ノヒヽキニテコトノミケキヲイトヒタルナリ
雪舟に乗ぬ誠の遊女のさゝうま　野径
涙ト云ヲ聞トカメテ遊女ノ身ノ上ヲ諷シタル之雨トミクレトイフニテ一夜〳〵ニカハル枕ノカナシサモコモルカ
壱歩につゝく丁百の銭　乙州
百ツヽノ銭ヲウナキテ壱アナ丈ニスルトイフ句之附ミハ前句ノ遊女寒イオモヒヲシテモ花ト云カイサヽカナモノジヤト云下心ヲアラハニ云ハスシテニホハセタルカ上手之
月花に庄屋をもりてろふるき　珎碩
前句ヲ百性ノワリ酒ト見テ庄屋ヲモテナシタリト附タリ。

七句目ノ月ヲコホシテ花ノ字ニ月花ヲスル一格ナリ

賣しほの塩のからみ　早蕨　恕誰

前句ヲ酒モリノ体ヲ見セレトテニシメノ塩カラキイカニモ山家ノアリサマナリ

く(ニテ)ろ春よ身ろも都ゐまふまし　里東

其中ニ一人リノタ(ミシ)セモノアリテ在所フリヲ早下シタル又ヲカシカラスヤ

半氣違の坊主泣かり　琉碩

此坊主ハコトノ気違ニアラス世捨人ナルヘシサテカヽル人ハ世間者トハモノヽカハリタルナリ附意ハ世ヲ捨タレトサスカニ都ノ春カコヒシクテ泣クトナリ

のろゝ行く居酒の荒の下　乙州

コヽハ前句ノ酒狂人ヲ見カヘテ其場ヲ付タリ

古きえくちの秋ころふ　鎌倉　野径

前句ノ居酒ノミノ体ヲイハントテ古キハクチトトハ見ヤリタル体ナルヘシ

時〻ハ百性まゐるも烏帽子まゐり　恕誰

前句ノ鎌倉ヲ執中ニシテイニシヘハ故アル所トイフヿヲカクシテ百性ニテモ烏帽子着ルトヨリイヒオフセタリ

酢所を見思ふ供御の蛤　泥土

淡路ノ廃帝ニシレ前句ノ百性ハ何シニ烏帽シ着タト案シテ酢所ノ供御ニ奉ル蛤ヲモテ行シナリ

打こめかもは船幽霊の泣やらん

付ノ句ナリ前句ハ悪人ノ為ニ一天万乘ノ君軍ニ打マケ玉ヒアヘツサヘサスうヒトナリ玉フ之附句ハ平家ナトノ没落ト付タリアハレフカシ　△此三

句百性ノ句ハ鎌倉ヲ附ケ又次ハ其百性ヲ淡路ノ廃帝ニ奪ヒ碁石
ノ蛤淡路ヲ出ス次ハ蛤ヲ檀ノ浦ナトニ求ケリ

連も力もうれ咲当寺刈　里東

前句ノ力ヒミキナテヲ受ケテ連ニ力モトハ骨折眼前ナリ

秋ぞ風の大屈寺撞手吹透し　野径

前句アハレナル道スカラノ場ヲ定メントテ大屈寺撞手ト地名ヲモ
トメタルナリ○大屈寺乗名郎ニ大屈家ノ生國之ト又嵐ト亀
山ノ間ニ土俗タイコ寺ト清音ニ云ト水口ニモアリト

嵓の二もろし用叶へかき　乙州

前句ノスサミキニ腹スヘイタミテ一歩モスヽミカタケレト大
事ノ用ヲカヽヘタレハイカニセントクルシムナテ人ヲ汪カシム
ル体ナリ

糊剛き夜着にちいさき侘座まて　泥土

前句ノ人ノアリサマヲ見セントテ新ハ附タリ前句ハ用ノ句ナリ此
句ハ体ノ句ナリ体用ニ句ニテ其コハル人ノアリサマハモノ不自由ナルヲ
シラセタルナリ

夕辺の月に菜食嗅おれ　怒誰

前句貧家ノ体ト見テ菜食ト云趣向ナリ喰フト云ヘハ作意ナシ
死ニモノニナルヘシ嗅出スニテ面白シ前句月ヲコおしタレハコヽ
ニテシヲリタルナリ

名ウ
看(カン)経(キン)の嗽(セキ)に渡きろし咳気声　里東

時分ノツケ之勝手ハ夕飯ノ仕度スル時分老ニハ持佛ニムカフサヽ之
嗽ニつきルヽハ老人トイハス聞セタル句ナリ

四十八老のうつくしき際　珎碩

是ハ前ノ人柄ヲ見セタルニ看経スル人ヲ殊勝ニホメタルニ又ク
ツヲレタル老人ト見噂ヲ付タルカイカヽ

堅くさす枕のあとを床重して　乙州

前句ノウツクシキ隣ト云ヲトカメテ年増ナカリノ女ト付タリ古人
ノ作例人倫ツキ多シト虽モ露ホトモ誠ヽニカヘラヌカ妙ナリ

酔を細目にあけて吹すし　野径

オテユリ附句モオヽ心得テ其人ノ用ヲイハントテ前句ノ床直シタル
ハ常ノ床ルニハアラス酔ヲオヘオントテオスカ女ナレハ障子ナトおヽ
明テ風ヲ入レイタル心ツカヒノオヘ妙ナリ

杉村の花も若葉する氣つき　怒誰

是ハ前句ノ外休之障子ナトノ少シアキタレハ向フノ杉村ノ若
葉ノ中ヨリ遅桜ノ見ヘタルケシキ之○杉村ハ杉群ナリト

田の片隅に苗のとりさし

アケ句モ心得テ苗ノトリサシト時候ヲモテ付タリ　此四五句ノ口
タリ恐ルヘシ

野径六　里東六　泥土六　乙州六
怒誰六　珍碩五　筆一

雑

亀の甲烹らる時ハ鳴もせず　乙州

亀ハスッポンノ事ナルヘシ句意ハ唯去聞ヘタル通リナルヘシヒソカニ
思フニ乙州一時憤満ノ事アリテ作レルカモ知ルヘカラス但コレラモ
臆度ノ事ナレハタヽカニハ云カタシ凡テ意ノアル必ハ其作者ノ心中
後人ノオヨハカリトハ違フ事アルヘシ此句ニ限ラス人ヽノ論説アル句

トモ大カタハ附会ノ説ナレハ受カタキヿ多シオレハ或笑ノ注サトレリ
△古詩曰老亀烹不爛移禍於古桑。東坡咥右ノ銘ニ咥中
詼笑慎桑亀。呉ノ孫権ノ時永康ノ民ハ山ニ入テ大亀ヲ得ル是山
亀ニ又秦亀ト云故加何ト亀ニ用ルカタメカクイフ其亀其人ニ云
テ曰ク此度不良ニシテ君カ為ニ浮ラルヽト諸人是ヲ怪シム其人亀ヲ
呉王ニ献ラント欲シテ舟ニ乗リテ行其夜越里ト云岸ニ舡ヲ繋キテト一、
ル其繋ク所ノ樹ノ中亀ヲ呼テ曰労セル哉元緒何ソ然ルヤ亀答テ曰
我拘繋(クヽリ)「シハリ」セラレテ将ニ烹ラルヘシ是何リ恐ルヽニ足ランヤ南山ノ
薪ヲ尽ストモ我ヲツフスヿアタハシ樹云呉ニハ諸葛玄遜アリ
必其我ホカ如キ樹ヲ求メテ烹ン亀ノ日多クモノイフヿナカレ禍汝
ニ及ハン樹即チ黙ス呉ニ至テ王ニ献ス孫権命シテ是ヲ
烹サシムサ薪万車ヲ焼ト無尤猶元ノ如シ諸葛恪ヲ呼テ是

ヲ問元遜答テ曰ク是ヲ烹ルニ老桑ヲ伐ラセハ忽解ニト献スル
人ノ曰ク亀ト樹ト問答セシヿヲ語ル則チ彼樹ヲ伐ラシメテ烹
ルニ立処ニ解ルト云ヿ。式説ニ此句薬喰ノ句ナリト。或美曰ッ根本
律ノ二鵞一鼈ノ故事ナリト
根本律曰有二鵞共一鼈為春親友遇天大旱池水皆空鵞欲
東西鼈曰好自存活鼈曰汝去我何所依可相将往去鵞曰汝
一枚我口咬共去他国空中飛過人或見曰空中二鵞共一牛
糞片飛鼈曰不是牛糞開口落佛言如人口過

唯牛糞に　風の　ふく音　　琢硯、

一説枯果タル姿トアリ説ニイカニモ的当セサルニ似タリ三ハラクハ式説
ニ任セテ発句ヲ薬喰ト見其余情ニ枯果タル野辺ノ体トス但シ
雉ノ発句ニ雉ノ眼アリ又一招又服ニ当季ヲ定ムルモヨシ。牛

糞ハ亀ノ裏詞ナリ

百姓の木綿仕まへハ冬の来て　里束

十月十二月甲ヲイタダダモノヲクラハストニフヿアリ昔ニ当季ヲ定メタリ
句ノ意カリレタル所ナシ

小哥そらゆふかふられの縄　探志

四句目ノ在体イトヨシ但カラ白ノ縄トハ縄ニトリツ〆テカラウスヲ
フムナリ大勢カ来ナトツク体見ニ見ヘルナリ

獨寝て奥の日ひろ哉　旅の月　昌房

此句ヨク放レヨク付タ句ナリ前句ノ家ヘ上リ合セタル体ニカヤウニ
テ人倫イクラツヽキテモ面白シ月ノ望ニシテ之ヲ蕭向ヲ楽シ
タル句ナルヘシサリナカラ獨寝ヲイフニ月ノシホリアシハイヨシ

蟷螂落てさゆふ行燈　正秀

前句ノ風情只カヘサヒシキニカヘキリカ落テ行燈カキヘイヨく
サヒシイトナリ

秋萩の浩前よちかき坊主衆　及肩

貧家ナトヲ訪テハ千眼一到ナルヨシハ上々ノ浩庵ノ間ヲ行燈ニ蟷
螂カ落ナ消ヤレタトニソコテ浩前ニ近キ坊主ヲ呼テ以ケナシ
タトニサテ秋サ秋ハ前句ノ虫ニ對シタニホリニテレイテイハヽ秋
萩ノ浩前トツヽケテ人ノ名トモシ又萩ヲ好メル人ト見ケ扱ノ
句ハ説ニアルヘシ

風呂の加減の志つこのころ　野径

浩坊主ノ執中ニテ居風呂ノ加減ヲ見タルニヤリ句ナリ茶
ノ湯ノ風炉トモ説非之去ナカラ此句ヲ茶ノ湯風炉ト見テ思
ルノ附句ハ季ウツリト見ルヘキカ

蔦の芽きて鳴出し　二嘯

前句ノ吾嬬ノ付ニシテ句意カクレタル所ナシ猶イハヾ凡兆ノ
加減トモ云ニ寒ノアタリ早春ノ蔦ヲ趣トセリ

雪のやうなる松そこの塵　乙州

寒キ声トモ云ナトカメテ雪ノヤウナルト附タリ時候ノ付ナリ前句
ハ時候コヽハ吾嬬ニカヘス江ハ小鳥ノ口白ニ△古言格ニ鶇カヘツカ小鳥ニ鶇鳲加未豆加
カヘスコハ是なるへし△楞庵漫筆ニ曰リ京摂ノ俗春ノ頃カヘス
コト云物ヲククラフ山陽四国辺ノ海濱ニ出ルモノナリ海濱ノ漁人ハ
イカナコトイヘリ将スルニ如何成子ナリ長シテイカナルモノニナレ
ルヤ不分明ナレハカク名ツケヒトリオモハル片田舎ニハミヤヒタ
ル名ナリ

初花も雛の巻楞居なるへ　珎碩

前句ノ小鳥雛鳥ニ用ヒタルイフ付ニ他意オソロヒ但ヒウノ五句
メ花ナリ九句メノ月ニ花ノ定座ニ秋ヲヨミ月ノ定座ハ春ニテ
ソアリケル変化ナリ

心のそこ子恋そめしかな　里東

前句ノ雛カナリミ若キ女トモノアツヘリ賠タルナヘヲ心ニヒルヒテコヽ
ノ作者ナシ心得テ心ノソコニ恋ツアリケルツケタリケヒ

御簾の香に吹そこなひし笛の役　探志

管絃ナトノ時ミスノウチニ女房達ノキヌノエヒテサヽメキ居チルラ心
ノウチニ恋ノアレハ笛ノ役ニアタル人心ツカヒヒテ笛ヲ吹ソコナイシトヽ

寐ころんで聞ハ鳥啼　昌房

前句ノ人恋人ニ逢コトセシカイキタナクテ側ノ人ノ寐コトスルニ
オトロキテ起タレハハヤ秋明ノ鳥ノ啼ヒト之前句ノ人ノ若くニ

キアリテヨクイヒタリ

銭入の巾着下て月ヲ行　正秀

今宵ハ月見ントテ昼過ヨリヤ床タリシカ床過ニテオトロキ能ク
聞ケハ月夜烏ノ啼ナリト不用意ニ出カケタルアリサマハ即
銭入ノ巾着下ケテトイフニキコユルナリ

また上京も見ゆる也やゝさむ　友肩

カク不用意ニシテ出タルハ、口スサミナルヘシ、ソコテ上京モ見ユルヤ、
寒ニシテ下京ナトハトカヘシ此またハ未タニアラス又ナリ

蓋ヲ重鳥羽の町屋の今年米　野径

時候ノ付ニ上京トイフニ鳥羽弥田ヲオモヒヨリテ付タリ　コメニモ
ルトハ初米ヲカケシ得タルニソコテ町屋トハ云フナリ

雀鈍あふ竹縁のぞく免き　二嘯

新米ノ出ル頃ハ雀ノ多クアツマルモノナレハ餌サシナトノ思ヒヨセナ
ルヘシ今ちゝめき蛩鳴ト云雀鳥ノ餌ノ小鳥ヲ入ル籠ヲチヽメキトモ云又
鳥ヲ取ル時タトヘハ百舌ヲ取ルニハ百舌ヲ土中ニ埋テ置テ鳴カスル又ハ
呼鳥トテ籠ニ入テ木ノ上ニカケ其声ヲ慕テ友鳥ノ来ルヲトルヽ

うすくもる日ハどんみりと霜おきて　乙州

ヤリ句ニシテ前句ノ人ノ道スカラノ体ニ○霜おもハヲレニテキユルヲ
折トイヒナシタルナルヘシ一句ノ意左モナクテハ解カタシ

鉢いひあつふ寺のおかぬる　珍碩

人ノ心モ天気アイニツルヽモノナレハ前句ノウツヽタルケシキヲ
不仕合ナル人ノ新発心トみタリ鉢ハ托鉢ナリ

深くうき木綿袷の統つき色　里東

是ハ前句ノ人ノスカタニテウナリナリトモ甲ヘル句ナリ

撰あまさもてききあま日の　探志
人ノ世ニ捨ラレテ没心ニタルヲ撰アヘナレテトニタルナルヘシ三句
一意ナリ寒キアケホノハ三ヨリシ
暁かりて菜鑵の下をもやし付　昌房
寒キ曙ヲ執中ニシテ付タリ句意カクシタル所なし
搏馬を呼りて我まもり口　正秀
此人朝トク起テ搏馬ヲ呼アリクナヘシ搏馬ハ傳馬ニヤ我ヘハリ
口トハ持分ノ所ナルヘシ
以まりける錢一節に狭箱　及肩
前句ノ人ノ傳馬ヲ呼アルキシハ錢狭箱ノヤカテシイ旅人ノ通
ナレハナリ口イキリタルイキハリタルナルヘシ
名汲かゆゑ鯉棚の秋　野径

コレハ前句ノ人ノ道中スチノサヘヲ云ニトテカクヨメルナルヘシ
○鯉棚ノ棚ハ店ノ字ナルヘキカ秋トハ水ノミナリナルヘシ
さらさらと切籠の残りて風吹て△　二嘯
秋ト云一字ニ目ヲツケテナヒシミヲ附タリ
奉加の序をも日のくのあて月　乙州
コレハ前句ノヒヽキニコノ句ハ奉加帳ノ序文ノ中ニモ当寺ハ月
見ルニ最上ノ処ニシテ何々ト書タリトヨカシタクヨミタリ附心ハ
切籠ノ残リトテ云ニ寺ノ事ヲ附タレハヒヽキト云ナリ
喰物も味のつくこさうらもしくき　珍碩
奉加帳ニハ大方ソノ神佛ノ利益ヲ書クモノナリワコラ此句ハ奉加
帳ノ序ニモアル通リホノカナル月ノ如ク明ラケキ利益ニアツカリテイ
クヘシキ大病カ喰モノニ味ツクヤウニナリタリトヲ

煤掃うちは次に居替る　里東

前句ノ病ニ上リイツカミキ中ヲハツシタルオモシロシ

名ウ
月をめぐらし兎のこそ子とりあけて△　探志

前句ハ傾城買ニ次ニ居カハリテウクウクモノヲ思フナルヘシソレハ何ヲ思フヤ兎ノ嘘ウクオヘホヒシノコト思フテ迷ヒ来ル人ナルヘシ

恋すふかたき宮上侍　昌房

宮上侍ハ恋ニハカタケレハオスカ兎ノウリヲヘコト、オモフト也

気にしのまゝ槌つて腰をさけ　正秀

宮上侍ノ田舎ビタルアリサマヲ云ニ料ナルヘシ

縄を集る寺の上葺　及肩

ユエアルコナルヘシ但前句ノオヘハ人丈サトノ姿ト見テツケタルナルヘシ○梯屋曰上葺ハ用心ニ用ルナレハ乱レヌヤウニ捷ナトニスシハリユヒオクシ

花の頃昼の日待に節に著て△　野径

寺ト云ニヨリテ昼ノ日待ト附タリ○一説ニ節ニハ節衣ノ俚言ナリト○梯屋曰節ニハ節ニトモ是五丈ニツキテアラヌ説ナトモタルモアリコレハ節きニテ節着ナリキノコカ埋滅シタルナリトモ二師ノイハレシトニ節着ハ正月着物ノ類ニテ日待月待ハ祭リノト略子侍巳侍トロシ

さらす獅子の春風　二嘯

日待ノアリオヘニヤシラス一句ノスカタオモシロシコヽノ是神楽ノヤウナモノナルヘシ○上ノ△下ハアヤヘシルニモ書アヤヘシルニモアラスオシ合オリキウヒミキカ、ハウ又蕉風ノ一家トシルヘシ

乙州四　珎碩四　里東四　探志四　昌房四
正秀四　及肩仝　野径仝　二嘯四

田野

曉道や苗代時の角大師　正秀

田野ノ春色ヲコヽカニイヒテ下心ハ農家ノ心ヲ用ウルヲ観ニ往々皆辛苦トイヘル古詩モオモヒ出ラルヽナリ「門口や牛王めくもて初時雨」ト句ト同シ姿ニ田舎ニテ苗代ノ咒ニ角大師ノ札ヲ備ナトニハサミテヲクヽ〇角大師ハ元三大師ノ法影ナリト△いひくるヲ言懸トキカセタルハイヤシ歎ナトハ自ラ通ヲモ一トスタトハヽ「かつらきとぬすみ初る達や秋の風」第ふノときも自ラアリ「又たくひも良の川の鵜飼」又頼ヒニテ添テ并ルナリ長良ハヨノツカラナキニ通フ

明ぼのや雲あかし嵐の款　珎碩

發句ハコヽカニ曉道ノ丁サイヒタレトモコヽニ又發句ヲ引起シテ朝霞トツヽケ野嵐ト附タルニテイヨヽ發句ノ姿アラハレタリ

喰ふさ跡つやくま鳴し春の色　仝

生類ノ對句ニシテ嵜ミニテ發句ノ余情ヲ押出シ免シ之嵜ニ轉句ノ論トハ別ニシトカク春ハラチモナキ嵜角太ノ見処モ聞処モナキ句ナレトオオナシクワルオシテナリタヤウナルオモシロシトナリ

かまくらしき門口の文字　秀

此句目轉句ナリ前ニ句此家ノ非体ト見タル附ニテカヘヘトスルハ文字ノ撰ニモ門ノ撰ミモナルニ

月影や利休の家を鼻つかむ　仝

前句ノ家タヽ人ノスム家ニアラスト見テ利休ノ家トハ又キ出シタ

り月影ニイヨゝオカシク見ユルト也他ヲ見タル句ナリ。古人ノ名表ニキラフトモ別ニ論アリ

庭し芋をもふきなしあり　碩

前句ノ利休ノ家ヲ鼻ニカケタル人カ哀ゝ芋ヲモラヒニ来ルト之月ニ芋ト付タルニテオスミタルコトモアルテヽ。然モラハルヽハモラヒニ来ナルヽ之

虫ハミなつゝましくと鳴やらん　秀

時候ノ附ニテ子細ナシ句意ハ前句ノ芋モラヒ哀ニ来ラルヽムツカシイコトヤト女ノ情アレハコヽニハ日ノミニカサミセニタクノハカトラヌヲ述懐ニシタルニテツヽレサセト云虫鳴ト云意ヲウヘテ鳴ヤラシワレハ仕舞カ合又之ト云心ナリ

片足しの木履はつめかな　碩

ミロノウタリ

秋ノ夜ノふしくニ友タチ尋ネテ思ハス夜ヲ更シトト見ヘテキリくスノ鳴ニオトロキ返ラントテ木履タツネシトシ

誓文を百もかけてたつぬ別路す　秀

木履タツヌルト云前句ニ別路ノ意ハ趣向之条ノ詞ハ一句ノミヨリナリ

あみたくミん刈　供の侍　碩

カクテテ深クチキリタレ氏ふ深きヲナシキニカヽリテ音信不通トナル主人ノアリサマヲ見テ供ノ侍ノナミタクムトハイカナル懐ノ切ナルニヤ如くノ作之

須广いまたおふ月由あらき所　秀

源氏須广ノ巻左近ノ侍ナルヘシ。源氏須广ノ巻紫ノ上ノ別レヨリミテ須广ヘ左近ノ侍オテ又榊ノ巻ノ活息所ノ野々ノ宮ノ別

レヒトシケレハ浪ヲト附テ葉ノ上ト定ム

狐の恐に　寺かりるやに　碩

須戸ノ内裏ノ時白狐ヲ狩セシトテ紀州雄ノ山ノ関守山口次郎方ヘ寺ヲ借リニ来ス其翁扨山口ノ家ヘ老狐来リテ曰汝友六ノ将我身ニ及ブヲ歎ク山口フシキニ思ヒテ家ニ傳フル手来寺カタク／＼シテ殺生ヲヤメシトソ○前注モヨシカリナカラ古幸ノ依ナルモ作意ナシ須戸ノ左近ノ物淋シキシヨリトノミ見ルモ一ヘタムヘナラスヤ

月氷に　師走の空の　銀河　秀

前句ノ恐ロシケナル意ヲウケテスサマシク附タリ一句ノ体ハシカタナシ一字ノスキナシ

無理に居たるに　膳も追はれ　碩

是ヲ起情附ト云前句ハ只師走ノ空のスサマシキニ人倫ヲ付テ引起シタル之附心ハ寒気ニ犯サレテ頓ブ風情ナルヘシ

以ふぬとて　大眼指も　打くもて　秀

前句ヲハ世ノ中ヲ見破リタル人ト見テ斯ハ付シカ

獨あるこも　鸚鵡に智恵に　碩

前句ヲ一奇人ト見テ附タリ句意カクレタル所ナケレトコトナヤマシニカヘタルコソ風狂人ノシワサナルヘシ

江戸の酒を　花候戻に　悲しかり　秀

コヽモ前句ノ意ヲオシ出シテ子トモハ何ニモ入ラヌカ江戸ノ酒ノ味イノ旨ホシイト云飲中八仙ナトノ人物ニ似タリ

あいの山　弾春の　入相　仝

アイノ山ヒクトハ伊勢ノあいの山ニテ候リザヽヒサブシテ真似シテ弾

ナルヘシ附意ハ前句ノ人酒ヲ呑シテ余念ナキ花見ノ哇興ナルヘシ

雲雀鳴く里は厩糞かきちらし　碩

前句ノ春ノ入相ヲ執中ニテ人倫ノ叫ヽキタルサコヽニテ人倫ヲハナル、趣向ナルヘシ附意ハ山ハ花見カ群レテ居レト里ハコヤシヲカキ散シテイカテオカシイトシ「もゝの哀の大宮人ハいとまあるやさくらかざして今日もくらしつ」ト百姓ワカハトカクセハシイモノシヤト也

火を吹て居る禅門の祖父　秀

前句ノイツカシキ了ヲウケテ七八十ナルモノヲ見出シテ附タルナリムクツケキ禅門ノ老人ナレト念仏ナトノホカハ用ナイトナリ火ヲ吹クト云ヲ云イテイハヽ老人ナレハコソ春モ寒クテト云心ナルヘシ

本堂はまだ荒壁のもしら組　碩

火ヲ吹イテ井ルトイフハ寒シト云情アレハカク附タリ

羅綾の袂しほりて絞ひぬ　秀

東本願寺ナトノヤウニ焼失ノ寺ナトナルヘシ去リナカラ本願寺ハ本堂トニハス御堂トイフ普請ノ滞ルヲナケクノミノ一句ナリ

逢を痛む人の姿を絵に書て　碩

前句ヲヤンコトナキ上﨟ノ幼キト見テ眉ナトハメテキタナキ白ヲ書テ見セタレハオソ知ニトテナキタリトソ

落雪たわむすゝき破たり　秀

人倫ハナレナリオテ附心ハ空撓ト云法テ当リテ当ラス当タラスシテ当ルアシハイノ注ニレハ逢ヲ痛ム人ノ絵姿ハ落雪ニタワム破スヽキノ如キ了トソ

荻垣の窓に燭を挟おき　碩

人ヲ見送ルカ逢中ハナレスルカナトニテ垣ニ残燭ヲハサミ至テ見トハ落雪タワムスヽキ破タリ前句ヲ庭ナトヽ見テ藤垣ノ窓ト場

ヲ定メタルナリ

口上呆奴いまさまの時宜　秀

コヽミテ寔ニ此場ハサムハ忍ヒアヒノ風情ト見テ人々見ヽラレストモノイヒ残シ帰ルサヘオモシロシ心ヲ残サズイヒ尽シテ別レタトイフテハ風情ナシ

たゞあさる小判くばる草履　碩

尊イ小判ジヤニ因テ草履ヲ着セテ粧フルトニコレハ戯シニテ草賎布ニ入タルナルヘシ附心ハ前句ノ人豪族タル金カ大切ナニ道ヲイツタナルヘシ○大木ニかゝるを笑トアリ

秋入初る肥後の隈本　秀

此地名カリニモウケタル之附心ハ小判トイフハ繁昌ナ城下ト云附之

幾日路も皆て月見る役者船　碩

前句ノ秋入初ルトイフニアハレナル心アレハ幾日路モ皆テ月見ルトハイヨシ寂シニ役者船トハオモシロシ附心ハモウ城下タカラヨイトイフ心ナリ

す布子ひとり敷寝之なり　秀

其役者ノ境界ハ大カタす布子一ツ敷寝之ルゾト

沢山（名ヲ）に兀めくくと喰ふまして　碩

兀メクヽトハ下部ノアダ名ニシテ前句ノ人ノ体ヲイハヽ料ナリ沢山ツウニ兀メクヽト喰フシテ埒モナイコトジヤトニ

呼ありけとも猫ハ帰らぬ　秀

是ハ前句ノ人ノ用ニ附心ハ外ノ用モアルヘキニ猫ヲ呼フ役ニナスレタトハヨク前句ノ人カラヲ見付タリ

子規御小人町の雨上り　碩

前句ノ処ヲ定ニトテ御小人町トイヒタリ此地名モカリニモウ
ケタルニサテホトヽキスハ一句ノ花ニテ雨アカリハ一句ノ実之侍
小人町ハ趣向ナリ

やしほの　楓木の芽萌　之　秀

前句ノ場ニテ時候トイヒ風情トイヒイハヒカタナキを

散る花に雪踏挽つる音ありて　碩

サテ其季ニテ植モノヲ花前ニ川ツケタリ花ノ咲ヤムヿヲユズ
チル花トミタルナルヘシ○雪駄ハ千利休路次入ノ時雪ヲイトフ
テ草履ニ牛ノ皮ヲハツケテハキタリ天正十六年太閤秀吉公
北野ニ於テ大茶ノ湯ヲ催スヿアリサレハ二句ノ間ヽ茶ノ湯ノ意
アルカ

小野の馬場にもゆかりある　秀

アケ句ハ前句雪踏ノミキヤウナ処ト見テ北野ノ馬場ト附
タリ陽炎ニテミヨリ春季ヲ定ム○ミカレハ花ノ句ハ前句ニ對
スレハ夏ノ句トナリ附句ニ對スレハ春ノ句トナルトミルヘシ

正秀十九　珎碩十七

負外庚子拝行ハ木七部集前ノ續キ

柳喰三吟

八朔や胛の朧つゝき　柳喰ひ　乙州

だくさにつむ幕末のから　北枝

つり缶静に見むきこき出　牧童

旅の月夜さものたしにあく　州

頃の点取ともを庵かしまや　枝

虚つく人の顔をまろし　童

摽張馬の焼鉄ふすふるを　州
盆の李を忘られしたる利　枝
入清ハ簾ニ跡もなくして暁くらん　童
しほつきわらに涙さへたる秋　州
ちりくりとあちまちに結ひ分たる襷着て　枝
雲の笑つもさも去ぬもの買　童
膝の垢ありし牧ふ世の中や　州
のほりして淀の屋ふ稼　枝
二十才 女雲ハ畠のうら稼を化ふかなと　童
式部か髪ハ涙つ笑ふつ　州
月花ハ男なふりて詠むへき　枝
酒ぬりまやふ春陰猶　童

丁婦ふ踊ふを峠あきやうむ　州
宿かの二階のうらいろ卯山　枝
いつの日二の障子みまもりし人影帳　童
額もぬこの怩角入まてく利　州
唐の芋料理まてひし夕日著　枝
かまあふ月は雲ま分きかす怩　童
秋きくく赤えれふ衣のうちまてこきも　州
てふしくと唄怩鮮口　枝
是まみてハ萩みさまよく怩ふ赤椿　童
小夜ノ斗り怩あこのふ知化寮　州
さかきふを辰まぬ詞親ふ募卦て　枝
引越しま怩垣のむかふ雨　童

名ウ

韃靼の蹊渡海しむらし来　州

湊もつけ多里の軒並　枝

半乱してのかも汁じん路つき　童

色しる目をもいへぬ風ひき　州

花の香の太蓑まゐも押掃り　童

うかゝい鳴かぬ小鳥鶯　枝

高松津向婦
写